

第 1 回 館 山 市 議 会 定 例 会 會 議 録

(第 6 号)

1 平成5年3月24日(水曜日)午後2時

1 館山市役所議場

1 出席議員 27名

1番 秋山 光章	2番 増田 基彦
3番 島田 保	4番 斉藤 実
5番 宮沢 治海	6番 植木 馨
7番 鈴木 順子	8番 永井 龍平
9番 脇田 安保	10番 庄司二三男
11番 山崎 雅己	12番 岩村 勝弘
13番 榎本 春光	14番 小宮 利夫
15番 山中金治郎	16番 鈴木 勝美
17番 鈴木 忠夫	18番 日下 君敏
19番 川名 正二	20番 生稻 陞
21番 神田 守隆	22番 福原 勤
23番 石井 昌治	25番 流山源次郎
26番 辻田 実	27番 横溝 功
28番 飯田 義男	

1 欠席議員 なし

1 出席説明員

市長 庄司 厚	収入役 川上 義雄
市長公室長 永野 修	総務部長 斉藤 賢司
民生部長 佐藤 澄雄	経済部長 小沼 晃
建設部長 伊東 衛	水道課長 鈴木 信一
教育委員会 会長 山田 教和	教育委員会 会長 高橋 博夫
選挙管理委員会 会長 加藤 利	選挙管理委員会 会長 伊丹 三男
農務局 査長 島田 啓夫	農業委員会 会長 斉藤 明

農業委員会 小倉 孝
事務局 長

1 出席事務局職員

事務局 長 兵藤 恭一

事務局 長 補 佐 土橋 康彦

書 記 鈴木 哲

書 記 鈴木 修一

書 記 松浮 郁夏

1 議事日程（第6号）

平成5年3月24日午後2時開議

日程第1

議案第 9号 館山市附属機関設置条例の一部を改正する条例
の制定について

議案第10号 非常勤の特別職の職員に係る報酬及び費用弁償
に関する条例の一部を改正する条例の制定につ
いて

議案第11号 館山市長、助役、収入役の給与及び旅費に関す
る条例の一部を改正する条例の制定について

議案第12号 館山市教育長の諸給与及び勤務条件等に関する
条例の一部を改正する条例の制定について

議案第13号 館山市水田農業確立対策基金条例を廃止する条
例の制定について

議案第14号 新たに生じた土地の確認について

議案第15号 新たに生じた土地を市の区域内に編入すること
について

議案第16号 新たに生じた土地の確認について

議案第17号 新たに生じた土地を市の区域内に編入すること
について

議案第18号 財産の取得について

議案第19号 財産の無償譲渡について

議案第20号 損害賠償の額の決定及び和解について

議案第31号 平成4年度館山市一般会計補正予算（第5号）

- 日程第2 { 議案第21号 館山市手数料条例の一部を改正する条例の制定
について
議案第22号 館山市教育兼務職員の給与等に関する条例の一部を改正する条例の制定について
議案第23号 館山市スポーツ振興審議会設置条例の制定について
議案第24号 館山市身体障害者ホームヘルプサービス事業に関する条例の一部を改正する条例の制定について
議案第25号 館山市老人ホームヘルプサービス事業に関する条例の一部を改正する条例の制定について
議案第26号 館山市国民健康保険条例の一部を改正する条例の制定について
議案第27号 館山市青年館の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例の制定について
議案第28号 館山市消防団条例の一部を改正する条例の制定について
議案第32号 平成4年度館山市老人保健特別会計補正予算(第2号)
- 日程第3 { 議案第29号 館山市農業協力員設置条例の一部を改正する条例の制定について
議案第30号 市道路線の認定及び変更について
議案第33号 平成4年度館山市下水道事業特別会計補正予算(第4号)
議案第34号 平成4年度館山市水道事業特別会計補正予算(第2号)
- 日程第4 継続審査について
{ 議案第1号 平成5年度館山市一般会計予算
議案第2号 平成5年度館山市国民健康保険特別会計予算

- 議案第 3 号 平成 5 年度館山市老人保健特別会計予算
議案第 4 号 平成 5 年度館山市ユースホテル特別会計予算
日程第 5 } 議案第 5 号 平成 5 年度館山市学童災害共済事業特別会計予
算
議案第 6 号 平成 5 年度館山市下水道事業特別会計予算
議案第 7 号 平成 5 年度館山市水道事業特別会計予算
議案第 8 号 平成 5 年度館山市国民宿舎事業特別会計予算
日程第 6 館山市選挙管理委員会委員及び同補充員の選挙

開 議 午後 2 時 0 6 分

◎議長（福原 勤君） 本日の出席議員数27名、これより第1回市議会定例会第6日目の会議を開きます。

本日の議事はお手元に配付の日程表により行います。

議案の上程

◎議長（福原 勤君） 日程第1、議案第9号乃至議案第20号及び議案第31号の各議案を一括して議題といたします。

総務委員会委員長報告

◎議長（福原 勤君） ただいま議題となりました各議案は、3月15日の本会議において総務委員会に付託されたものであります。

よって、これより各議案に対する総務委員会における審査の経過並びに結果につき委員長の報告を求めます。

総務委員会委員長流山源次郎君。御登壇願います。

（総務委員会委員長流山源次郎君登壇）

◎総務委員会委員長（流山源次郎君） ただいま議題となりました議案第9号乃至議案第20号及び議案第31号に係る総務委員会における審査の経過並びに結果についてを御報告申し上げます。

去る3月15日の本会議におきまして本委員会に付託されました各議案につ

きまして、17日委員会を招集し、慎重に審査を行いました。

以下、その質疑応答等主なものについて申し上げます。

まず、議案第9号館山市附属機関設置条例の一部を改正する条例の制定についてであります。附属機関の運営及び委員の構成等について詳細に説明を求めるとともに、今後さらに附属機関の設置目的に沿った運営がなされていくよう要望いたしました。

次に、議案第10号から議案第12号につきましては、非常勤の特別職の報酬、市長、助役、収入役、教育長等の給与の引き上げに関する議案でございますが、報酬審議会において他市の状況や財政力指数等について説明をしたが、その中で、厳しい時代の中で市長あるいは議員のリーダーシップが求められるときであり、なお一層の努力を願いたいとの意見があったとの説明がありました。

なお、討論において、報酬の問題については市民の十分な合意が必要である。審議会の合意が得られたとはいっても、市民の中で必ずしもそうではないという声もあり、十分な合意が得られていないとして、反対するとの意見がありました。

次に、議案第14号から議案第17号の新たに生じた土地2件の確認及び市の区域内に編入するための議案であります。いずれも所有権は県にあるとの説明がありました。

次に、議案第18号財産の取得についてであります。ウェルネスリゾート計画について、これだけの土地買収が進められている中で、開発の具体的な計画づくりに当たって、地元の意見をどのように反映するかの質問に対し、具体的なゾーンというものは明確になっていないが、将来用地を取得していく中で、基本構想を踏まえながら、各階層の意見等を聞いて進めていきたいとの考えが示されました。

なお、この土地の活用は極めて周辺地域の振興に影響を及ぼすことから、住民の納得できる計画づくりをされるよう要望するとの意見がありました。

次に、議案第19号財産の無償譲渡についてであります。譲渡先である町内会等の法人化について、また譲渡後の登記について説明を求めましたとこ

ろ、今回の譲渡先の町内会については法人化されておらず、払い下げに当たっては町内会の代表者2～3名が名義人になると聞いている。従前のものについてはすべて登記は完了している。なお、将来問題が起きないよう、総会等の記録をきちんと残すように指導しているとの説明がありました。

次に、議案第20号損害賠償の額の決定及び和解についてであります。損害賠償額86万余円についてはすべて保険で賄われるとの説明がありました。

次に、議案第31号平成4年度館山市一般会計補正予算（第5号）であります。水道事業特別会計第3次拡張事業出資金の2億3,658万7,000円の減額について説明を求めましたところ、国の補助が14.3%と低い採択率になったことから、市も同額の出資金を減額しようとするものであるとの説明がありました。

さらに、今後の水道供給事業に及ぼす影響が心配されるがどうかとの指摘に対し、南房総広域水道企業団への国の補助は順調にされているが、各事業体の拡張事業に対する補助が厳しかったもので、今後3年間で何とか取り戻すよう努力していきたいとの考えが示されました。

以上、審査の概要について申し上げます。

採決の結果、付託を受けました議案第9号、議案第13号乃至議案第20号及び議案第31号については全員一致をもって、議案第10号乃至議案第12号については賛成多数をもって、それぞれ原案どおり可決すべきものと決しました。

以上御報告申し上げます、総務委員会委員長報告を終わります。

◎議長（福原 勤君） 以上で委員長の報告を終わります。

質 疑 応 答

◎議長（福原 勤君） ただいまの委員長報告について御質疑ありませんか。
— 御質疑なしと認めます。よって、質疑を終結いたします。

討 論

◎議長（福原 勤君） これより討論を行います。

通告はありませんでした。討論はありませんか。— 討論なしと認めます。

よって、討論を終結いたします。

採 決

◎議長（福原 勤君） これより採決いたします。

採決は分割して行います。

まず、議案第9号について採決をいたします。

本案についての委員長の報告は原案可決であります。

本案を委員長の報告どおり可決することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎議長（福原 勤君） 御異議なしと認めます。よって、本案は原案どおり可決されました。

次いで、議案第10号乃至議案第12号の各議案について一括して起立により採決いたします。

各議案についての委員長報告は原案可決であります。

各議案を委員長の報告どおり可決することに賛成の諸君の起立を求めます。

（賛成者起立）

◎議長（福原 勤君） 起立多数であります。よって、各議案はいずれも原案どおり可決されました。

次いで、議案第13号乃至議案第20号及び議案第31号の各議案について一括して採決いたします。

各議案についての委員長の報告は原案可決であります。

各議案を委員長の報告どおり可決することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎議長（福原 勤君） 御異議なしと認めます。よって、各議案はいずれも原案どおり可決されました。

議案の上程

◎議長（福原 勤君） 日程第2、議案第21号乃至議案第28号及び議案第32号の各議案を一括して議題といたします。

文教民生委員会委員長報告

◎議長（福原 勤君） ただいま議題となりました各議案は、3月15日の本会議において文教民生委員会に付託されたものであります。

よって、これより各議案に対する文教民生委員会における審査の経過並びに結果につき委員長の報告を求めます。

文教民生委員会委員長山崎雅己君。御登壇願います。

（文教民生委員会委員長山崎雅己君登壇）

◎文教民生委員会委員長（山崎雅己君） ただいま議題となりました議案第21号乃至議案第28号及び議案第32号に係る文教民生委員会における審査の経過並びに結果について御報告申し上げます。

去る3月15日の本会議におきまして本委員会に付託されました各議案につきまして、17日委員会を招集し、慎重に審査を行いました。

以下、その質疑応答等主なものについて申し上げます。

まず、議案第21号館山市手数料条例の一部を改正する条例の制定についてであります。今回公的年金受給権者の生存に関する証明手数料について無料にしようとするものであります。各自治体の状況については、平成4年4月1日現在館山市を含む6市が有料であったが、平成5年度からは全市とも無料になり、近隣町村においても無料になる予定であるとの説明がありました。

なお、無料化に伴い、歳入で約360万円の減収となること、また民間の個人年金については有料であるとの説明がありました。

次に、議案第23号館山市スポーツ振興審議会設置条例の制定についてであります。今回の審議会を設置することについて評価するとともに、今後設置目的に沿った有意義な運営がされるよう要望するとの意見がありました。

次に、議案第25号館山市老人ホームヘルプサービス事業に関する条例の一部を改正する条例の制定についてであります。第4条の奉仕業務を介護サービスと改めることについて質問したところ、今回身体の看護をさらに加えたものであり、従前のサービスについては改正後の規定でも十分対応できる

との説明がありました。

次に、議案第28号館山市消防団条例の一部を改正する条例の制定についてありますが、費用弁償については県下各市あるいは近隣市町村との比較検討により今回改定しようとするもので、実績に基づいて支給がされているとの説明がありました。

採決の結果、付託を受けました議案第21号乃至議案第28号及び議案第32号については、全員一致をもって原案どおり可決すべきものと決しました。

以上御報告申し上げまして、文教民生委員会委員長報告を終わります。

◎議長（福原 勤君） 以上で委員長の報告を終わります。

質 疑 応 答

◎議長（福原 勤君） ただいまの委員長報告について御質疑ありませんか。

— 御質疑なしと認めます。よって、質疑を終結いたします。

討 論

◎議長（福原 勤君） これより討論を行います。

通告はありませんでした。討論はありませんか。 — 討論なしと認めます。よって、討論を終結いたします。

採 決

◎議長（福原 勤君） これより採決いたします。

採決は一括して行います。

各議案についての委員長の報告は原案可決であります。

各議案を委員長の報告どおり可決することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎議長（福原 勤君） 御異議なしと認めます。よって、各議案はいずれも原案どおり可決されました。

議案の上程

◎議長（福原 勤君） 日程第3、議案第29号、議案第30号、議案第33号及び議案第34号の各議案を一括して議題といたします。

建設経済委員会委員長報告

◎議長（福原 勤君） ただいま議題となりました各議案は、3月15日の本会議において建設経済委員会に付託されたものであります。

よって、これより各議案に対する建設経済委員会における審査の経過並びに結果につき委員長の報告を求めます。

建設経済委員会委員長脇田安寿君。御登壇願います。

（建設経済委員会委員長脇田安寿君登壇）

◎建設経済委員会委員長（脇田安寿君） ただいま議題となりました議案第29号、議案第30号、議案第33号及び議案第34号に係る建設経済委員会における審査の経過並びに結果について御報告申し上げます。

去る3月15日の本会議におきまして本委員会に付託されました各議案につきまして、18日委員会を招集し、審査を行いました。

まず、議案第29号館山市農業協力員設置条例の一部を改正する条例の制定についてであります。今回、一連の報酬改定に伴い、協力員の報酬についても引き上げを行おうとするものでありますが、協力員の職務については転作等の問題など極めて重大で、かつ労力的にも大変なものがあるので、最高限度額を2万2,000円とする今回の改正に賛成はするが、その職務を考えたとき、将来的に特段の配慮を要望するとの意見がありました。

次に、議案第33号平成4年度館山市下水道事業特別会計補正予算（第4号）についてであります。歳入において国庫補助金1,040万円の減額がされていることについて説明を求めましたところ、終末処理場の基本設計委託に対する国庫補助金が現年に全額交付されるということで予算計上したが、5年分割で交付されることになったもので、残りの5分の4について本年度は特別地方債で充当され、減額による計画の変更はない。なお、この特別地方債については翌年度以降の国庫補助金をもって相殺されとの説明がされました。

採決の結果、付託を受けました議案第29号、議案第30号、議案第33号及び議案第34号につきましては、全員一致をもって原案どおり可決すべきものと決しました。

以上御報告申し上げまして、建設経済委員会委員長報告を終わります。

◎議長（福原 勤君） 以上で委員長の報告を終わります。

質 疑 応 答

◎議長（福原 勤君） ただいまの委員長報告について御質疑ありませんか。
— 御質疑なしと認めます。よって、質疑を終結いたします。

討 論

◎議長（福原 勤君） これより討論を行います。

通告はありませんでした。討論はありませんか。— 討論なしと認めます。
よって、討論を終結いたします。

採 決

◎議長（福原 勤君） これより採決いたします。

採決は一括して行います。

各議案についての委員長報告は原案可決であります。

各議案を委員長の報告どおり可決することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎議長（福原 勤君） 御異議なしと認めます。よって、各議案はいずれも原案どおり可決されました。

継続審査について

◎議長（福原 勤君） 日程第4、請願書の継続審査についてお諮りいたします。

建設経済委員会に付託中の請願第8号「コメ市場開放反対都市宣言」を求める請願書について、委員長から慎重審査の必要上、会議規則第104条の規

定により、閉会中の継続審査とされたいとの申し出がありました。

本請願を委員長からの申し出のとおり閉会中の継続審査とすることに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎議長（福原 勤君） 御異議なしと認めます。よって、本請願は閉会中の継続審査とすることに決しました。

議長の報告

◎議長（福原 勤君） なお、この際申し上げます。

各常任委員会における陳情審査結果が報告されております。お手元に配付の印刷書により御了承願います。

議案の上程

◎議長（福原 勤君） 日程第5、議案第1号乃至議案第8号、平成5年度各会計予算を一括して議題といたします。

予算審査特別委員会委員長報告

◎議長（福原 勤君） ただいま議題となりました各会計予算は、3月16日の本会議において特別委員会を設置し、付託されたものであります。

よって、これより本予算に対する予算審査特別委員会における審査の経過並びに結果につき委員長の報告を求めます。

予算審査特別委員会委員長榎本春光君。御登壇願います。

（予算審査特別委員会委員長榎本春光君登壇）

◎予算審査特別委員会委員長（榎本春光君） ただいま議題となりました議案第1号乃至議案第8号、平成5年度館山市一般会計予算並びに特別会計予算に係る予算審査特別委員会におきます審査の経過並びに結果について御報告申し上げます。

去る3月16日の本会議において設置されました本委員会を19日招集し、各会計における予算につき慎重に審査を行いました。

以下、委員会におきます質疑応答等、整理いたしまして、その概要を御報告申し上げます。

まず、一般会計歳出であります。第2款総務費であります。会計全般を通じた負担金及び補助金について質疑がありました。予算計上に当たっては、基本的には担当課で効果等を検討し、また財政担当においても目的が達成されたものは廃止するような方向で進めているとの説明がありましたが、さらにその効果等を十分精査され、形式的な計上がされないよう、部内だけでなく、さらに高度に専門的な検討をしていく組織をつくっていくべきではないかとの意見がありました。

次に、交通安全対策費に関連して、館山市の交通事故の発生状況について説明を求めましたところ、平成4年の発生件数は369件、前年比16.8%の増であり、人口1,000人当たりの発生率としては県内各市で7位、また80市町村では19位にあり、館野地区で急増しているとの説明がありました。

さらに、発生率が極めて高いと思われるが、市全体の安全対策、道路の構造も含めた安全施設について見直す必要があるのではないかと指摘に対しまして、道路の問題、運転者の問題、さらに観光地であることなど、複雑な要素があると考えられるが、総合的なしっかりした対策を行い、絶滅を期して努力していくとの考えが示されました。

次に、第3款民生費であります。お年寄りが生きがいを持って生活すること、社会との関連性を持つことは極めて大切であり、その意味では高齢者働く会の役割は大きいと考えるが、組織、作業の依頼、財政的な問題について説明を求めましたところ、2月現在会員数36人、作業内容については草刈り、測量助手、公共施設の管理などで、平成4年度2月までの就労実績は1,665日、1日当たり3時間半程度、収入が402万6,000円、将来的には違った観点からさらに増強も図らなければならないと考えるが、現在は高齢者の生きがいづくり、仲間づくりという面から進めているとの説明がありました。

なお、今後シルバー人材センターのような自主的な運営で法人格を持った組織にされるようになお一層の努力をされるよう要望いたしました。

次に、児童福祉費に関連して、新年度の保育料について伺いましたところ、

従前国の示す1年おくれの徴収基準と定員100人の保育単価で積算してきたが、団体委任事務への移行に伴って国が基準を示さなくなったことにより、新年度の徴収見込みに過去3年間の平均軽減率を掛けて積算した結果、3.2%の引き上げになるとの説明がありました。

なお、少子化時代が危惧されている今日において、子育てについては個々の責任ではなく、社会的な責任ということが強調されており、応分の負担をとということであるが、社会的責任という問題を全面的に出した考え方をしなければならないのではないかと意見がありました。

次に、第4款衛生費であります。安房南部伝染病隔離病舎組合事務費が計上されていますが、伝染病隔離病舎組合をさらに広域化していくことについての要望に対するその後の経過について説明を求めましたところ、現状では鋸南衛生組合との統合または事業委託をすることができないかということでは話し合いを進めているところで、鴨川市は独自に運営したいという意向を持っていることから、広域化についてはさらにその次の段階であるというふうに考えているとの説明がありました。

次に、第6款農林水産業費であります。農業費の中で園芸生産施設化促進事業補助金が計上され、この内容については、園芸の生産性向上を図るため、農協が行うリース方式による生産施設の設置費に対し助成するものであるとの説明がされておりますが、大規模なものでなくても、また個人でも、さらには点在していても該当になることから、自立農家の育成、意欲のある農家の育成にとって非常に効果のあるものと考えられる施策であるとの意見がありました。

次に、畜産業費に関しまして、現在酪農が低迷している中で、豊房育成牧場への預託の状況はどうか説明を求めましたところ、現在約70頭の預託がされており、減少の傾向にある。運営については安房畜協に委託しているが、厳しい状況にあると聞いている。なお、預託の割合については、市外からの預託の方がやや多い状況にあるとの説明がありました。

次に、水産業費における外来漁船誘致事業について説明を求めましたところ、外来船が館山市の水揚げに大きなウエートを占めているのが実情で、平

成3年度では館山市全体の水揚げの19%を占めている。特に、カツオ船については誘致して効果があったことも事実である。なお、平成4年度においては事業は実施されなかったとの説明がありましたが、委員より実績と照らして適正な補助を行うようにとの要望意見がありました。

次に、第7款商工費であります。観光協会補助金が計上されていますが、観光協会の組織、具体的な事業について説明を求めるとともに、観光協会は観光振興の母体ともなる組織であり、その事業について、時代の趨勢に合った事業が行われるよう市でも指導されたい。また、協会の会員についても、あらゆる業種の関係者が加入するよう、今後その拡大を図るべきではないかとの意見がありました。

さらに、関連して、海水浴場には南欧風のトイレ、休憩所などが建設されていることでもあるし、海水浴シーズンにおける海岸のイメージアップについても改善が図られるように指導されたいとの意見がありました。

次に、大型店進出対策資金利子補給金については、4年度2件申請があり、現在6件が対象となっている。今後さらに有効活用を図っていききたいとの説明がありましたが、不況の中で大変少ないのではないかと感があるので、さらに積極的な広報に努められるとともに、利用しやすい体制づくりをされるようにとの要望意見がありました。

次に、第8款土木費であります。まず土木費全般に対する考え方についてたどりましたところ、現場から出た要望を十分検討の上、取捨選択し、市民の生活環境の整備、新しいまちづくりのための視点を定め、総合的な判断のもと、均衡のとれた全市的な立場での整備を図っていくとの考えが示されました。

次に、東関東自動車道路の進捗状況について、各区间における工事の進捗状況等の説明がなされ、東京湾横断道路の完成に合わせ供用開始がされるよう、近隣町村ともども建設省に働きかけているとの説明がありましたが、あわせて、館山バイパスの開通に伴ってバイパスの交通量がふえ、わき道への影響もかなり出てくると思われるので、道路改良等について十分配慮されたいとの意見がありました。

次に、第9款消防費であります。週休2日制との関連で広域消防職員の待遇改善について質疑がありました。職務の性質上、事務の合理化ということでは解決できない問題であり、広域圏においては週42時間体制を実施すべく、平成8年度を目途に人員増を図っていくようであるとの説明がありましたが、さらに救急車1台当たりの人員についても国の基準が充足されていない面も見受けられるので、時間短縮からの議論だけではなく、体制の整備充実という観点からの検討もすべきではないかとの指摘がありました。

次に、第10款教育費であります。婦人会館の建てかえに伴う名称の変更については、既に本会議においても質疑があり、補助事業の関係から変更せざるを得ないもので、従来からの婦人会館での活動に支障のないよう配慮するとの説明がされておりますが、さらに女性、婦人に着目した施設として考えるならば、利用しやすいような施設の設置が必要ではないかとの意見に対しまして、現在の計画では、主体は学習室であるが、そのほかに談話室、保育室というものも確保したいと考えているとの説明がありました。

次に、一般会計歳入であります。市民税について、不況の状況は深刻なものがあると考えますが、その中で個人市民税が増加をし、法人市民税が減少していることについて説明を求めましたところ、個人については調定レベルで4%増を見込んで積算したもので、法人については不況であることを見込んで積算したが、特に金融業、電力関係が大きく、その他の業種についても全般的に落ち込んでいるとの説明がありました。

次に、地方交付税についてであります。地方交付税に対する国の予算が4,000億円も減額されていることについて、館山市財政との関係でどう理解しているかとの質疑に対しまして、全く影響がないとは言えないが、新年度予算について、特別交付税は前年と同額、普通交付税は増額しており、これについては地方財政計画、平成4年度の決算見込みから推計し、積算したとの説明がありました。

次に、国民健康保険特別会計であります。新年度において国保税の値上げの意向があるかとの質疑に対しまして、本年の冬の風邪の流行で医療費がどうなるかという問題もあるが、予算編成時点で考えているような決算がで

きて、値上げをしないで済ませられたらという希望的観測を持っているとの考えが示されました。

以上が質疑応答等の概要であります。

次に、討論を行いました。まず、地方交付税の特例減額ということで、地方自治体に国の財源不足をしわ寄せすることはあってはならず、全国の団体を通じて運動を広げ、地方財源の確保に努力されたい。消費税は基本的に悪税と主張してきたが、不況が深まる中で改めて消費税に光を当てる必要がある。消費譲与税を計上した市長としての政治姿勢を明らかにすべきである。リゾート問題については、既に大企業中心のリゾートは破綻を来しており、住民の立場からの見直しに踏み出すべきで、選挙公約の精神に立ち返っていただきたい。保育は社会的な問題であるということから、今回の保育料の値上げについては了解できない。年金の受給証明の無料化については支持をする。以上の点を指摘し、一般会計予算に反対するとの意見がありました。

さらに、他の委員より、最近の経済情勢は依然として厳しい状況にあり、国、地方を通じ税収の落ち込み等が指摘されている。この状況の中で、前年度比 8.4%、一般会計、特別会計合計で12.4%の伸びを示しており、これは県下各市で上位の伸び率であり、総体的には館山工業団地、駅周辺整備、上下水道等々主要事業が基本計画に沿って着実に進行している証左であり、それを裏づける予算編成で、市当局の努力を高く評価する。しかし、地方自治体に対する行政需要は多種多様をきわめ、当市を取り巻く諸情勢も大きく動いているので、今後とも当局におかれては委員会での要望事項等を十分検討され、効率的な行財政運営に努められるよう要望し、各会計予算に賛成するとの意見がありました。

採決の結果、付託を受けました議案第1号、一般会計予算については賛成多数をもって、議案第2号乃至議案第8号の各特別会計予算については全員一致をもって、それぞれ原案どおり可決すべきものと決しました。

以上、本特別委員会における審査の概要につきまして御報告申し上げ、予算審査特別委員会委員長報告を終わります。

◎議長（福原 勤君） 以上で委員長の報告を終わります。

質 疑 応 答

◎議長（福原 勤君） ただいまの委員長報告について御質疑ありませんか。

— 御質疑なしと認めます。よって、質疑を終結いたします。

討 論

◎議長（福原 勤君） これより討論を行います。

通告がありますので、発言を許します。

26番議員辻田 実君。御登壇願います。

（26番議員辻田 実君登壇）

◎26番（辻田 実君） 議案第1号平成5年度館山市一般会計予算に賛成する立場から、4項目の御意見を申し上げたいと思います。

まず、第1項目でございますけれども、本年度予算におきまして156億2,800万円を計上いたしましたことは、前年対比で8.4%の伸びでございます。国、県の財政状況、さらには他の市町村におきましてはマイナス予算になっているところもある中において、こうした積極予算を編成できましたことを高く評価いたしたいと思います。

2番目に、具体的に3点にわたりまして、項目別に評価する点について申し上げます。

まず第1は、スポーツ審議会を設置いたしまして、これに対するところの予算を計上してくださりましたことは、県下で15番目に設置することになるわけでございますけれども、この点については高く評価し、今後の充実発展を期待いたしたいと思います。

2番目には、他の項目におきまして、新規事業として館野保育園の改築、二中武道館の建設、中央地区学習等供用施設の建設の新規事業と、土地開発基金によりまして、3億7,000万円で駅前の土地1,300平方メートルを取得しましたことは非常によいことであり、市民の期待にこたえられるものといまして高く評価をしてまいりたいと思うわけでございます。

3番目に、上水道の出資金16億4,000万円、工業団地の土地取得に4億6

、200万円、西口区画整理事業に2億7,000万円、下水道事業会計に2億9,000万円を計上し、支出することになりましたことは、継続事業の推進を確実にいたすものといたしましてこれを評価し、これらの諸事業が早期に実現されることを願ってやみません。

次に、第3項目でございますけれども、平成5年度予算に計上されなかった事業並びに非常に額が少なかったものについて、特に4点について指摘をし、御意見を申し上げたいと思います。

まず第1は、老人福祉法が改正になりまして、平成元年から10カ年戦略というものが厚生省並びに県によって立てられました。さわやかハートちば5カ年計画におきましては、ゴールデンプランとして各市町村に総合福祉センターを設置して福祉の充実を図るということがなされているわけでございますけれども、この点について予算の計上が全くなかったということについてはどうかというふうに思われます。

2番目には、西口の区画整理が進む中で西口開設の予算化が見られなかったことは、これは、西口整備が平成8年に完了するわけでございますけれども、この時点において西口を開くことが非常に困難な状況に立ち至っていることは御案内のとおりでございます、こうした点でもって、本年度に西口開設の予算が計上されなかったということについては非常に残念に思うところでございます。

3番目には、公認陸上競技場の建設のための何らかの予算が必要であったかと思うわけでございます。それは、平成2年度に県民体育大会が各ブロックごとに巡回になりました。第1回として南部地区、館山市が指定されたんですがすけれども、公認競技場がないためにこれを返上し、5年後にはぜひ館山でお願いをしたいという注文をつけながら今日に至っております。平成7年度は南部の大会が開かれるわけでございますけれども、ことしこうしたところの予算の計上がないということは、平成7年度におきますところの県民体育大会の会場地を返上せざるを得ない状況に立ち至っておりますことについて、非常にスポーツ界を通じて残念に思うところでございます。

4番目に、市道の改良舗装費が市長就任以来減少していることでございま

す。これに歯どめができなかったことについては非常に残念に思うわけでございます。平成3年度5億9,550万円、平成4年度5億3,790万円、そして本年度は5億円でございます。この点につきましては、少なくとも予算の伸び率に準じて、やはり庄司市長の中心政策であるところの道路改良舗装を推進していただきたい念願は市民だれしも同様であると思うわけでございます。しかしながら、これらの問題については、大きな道路改良費が終わったので、したがって予算が減ったということでございますけれども、こうした状況では市民の期待にこたえられないと思います。私が要望している事項の中におきましても、3年越しの市道改良についてもまだ実現を見ておりません。聞くところによりますと、もっとひどいところが多いので、先ほども答弁にございましたように、全市公平にやっていくということでございますけれども、きょう私もうちから出てくる間に市道の水があふれているというような状況もございまして、こういうところも何か来年は無理、再来年はどうかというような状況でありますと、非常に市道の改良、また側溝の改良がおくれていることは事実でございますから、これについて抜本的な対策を立てないと、市長自身の政治生命に及ぶようなことになりかねないという点を心配するわけでございまして、この点については、十分その舗装改良について予算の措置をとってもらいたかったという点については御要望申し上げたいと思います。

以上の点で、同じ地域の鴨川市と比較しまして、鴨川市は総合福祉センターの予算を11億、公認陸上競技場の建設費の予算を1億、そして橋上駅の建設促進協議会の発足、さらには観光物産会館の建設準備会の結成を見たことが報道されているわけでございまして、こうしたところの政策と絡めまして、館山市民の意思という問題の中において非常に大きな疑念を残すものじゃないかというふうに思うわけでございまして、こうした点を考慮して今後の予算執行に当たっていただきたいというふうに思います。

最後になりますけれども、厳しい状況の中でもってこれだけの予算を組む市長の努力につきましては非常に高く評価し、本当に御苦労さまであったと思います。また同時に、市長は就任以来多くの政策を実現しようとして方針

を打ち出しております。しかし、これらがことごとく財政の問題でもって打開できない点にあることは非常にもどかしいと思うわけでございます。しかしながら、この問題を克服して、何としても乗り越えていかなければならないわけでございまして、私はこの点につきまして3点について御意見を申し上げまして、市長が来年の予算においてこれらについて十分考慮されることを願ってやまないわけでございます。

昨年3月議会において山中議員が指摘されましたように、市民1人当たりの予算が少ないのでございます。今年度予算におきましては、1人当たりの予算は館山市の場合28万5,700円でございます。28万円でございます。鴨川市は34万1,600円でございます。隣の富津市は32万3,200円でございます。勝浦市が32万9,000円でございます。富津、勝浦並みにすれば、約20億の予算増ができるわけでございます。また、鴨川と同じ水準まで持っていけば、30億円の事業ができるということでございまして、こうした点について、社会福祉会館、さらには公認陸上競技場、橋上駅、道路の整備等は十分措置できるわけでございますけれども、こういった点でできないことについては非常に残念に思うところでございまして、この点については他市がやっていて館山がやれないわけではないわけでございますので、その点については十分研究を深めていただきたいと思います。

2番目には、自主財源が少ないということについて市長は非常に頭を悩ませているわけでございますけれども、市税の構成比は41%という館山市の場合には割合高い水準にございます。隣の鴨川市は29.9%でございます。そして、私は本間市長並びに半澤市長が就任して3年目、今の市長と同じ立場におったときに議員としても参加していたわけでございますけれども、そのときの状況を申し上げますれば、昭和39年、本間市長のときには予算は6億5,629万円でございます。そのときの自主財源は35.8%という非常に低い中でもって努力されております。そして、半澤市長、51年——これはちょうど3年目でございます。このときの総予算額は45億でございます。そのときのやはり自主財源の割合は37.7%という非常に低い中でもって克服してきているわけでございます。そうした点につきましては、半澤市長の緊縮財政、健

全財政のもとに50%近くの自主財源を持った中でスタートしたわけでございますから、ここら辺についてはやはりそれぞれの市長が苦勞してやってきているわけでございますから、その点を十分考慮して措置してもらいたい。

庄司市長が就任した平成3年におきましては、土木費が構成比の17.4%、これが一番でございます。4年度は衛生費が19.4%、本年度予算につきまして構成比の一番高いのは19.9%の衛生費でございます。このことは、裏を返して申しますれば、館山市は積極的な政策予算が組まれていない、こういうことが言えるんじゃないかと思います。これはどこの市町村でも、積極的な予算を組んだ場合には20%を超える状況があるわけでございます。これは昭和39年——本間市長3年目のときには教育費の構成割合は26.19%と突出しているわけでございます。半澤市長が3年目の51年は民生費が23%、教育費は22%という突出した予算を盛っているわけです。このことが同時にやはり1人当たりの予算額を引き上げ、財政需要額を引き上げて予算規模を大きくしておったわけでございますけれども、こうした点につきましては、この数年来続いておりますところの健全財政を堅持する市長の建前というものは十分理解できるわけでございますけれども、しかしながら市長が持たれているところのすばらしい政策を実現するためには、やはりこうした面につきまして大胆に政策を打ち出し、そしてそれらを実現し、市民の期待にこたえるべきじゃないかというふうに思うわけでございまして、こうした点については十分検討いたしまして、ひとつ政策の転換をいたしまして、市民にこたえられる予算案の編成に当たっていただきたいというふうに思います。

私もできるだけの協力をしてまいります。そして、市長とともに市民のために積極予算の編成ができますことを願ひまして、本年度予算案につきまして賛成するものでございます。どうかよろしく御検討のほどお願い申し上げます。

◎議長（福原 勤君） 以上で辻田 実君の討論を終わります。

以上で通告者による討論を終わりますが、通告をしない議員で討論はありませんか。

日下君敏君。

(18番議員日下君敏君登壇)

◎18番(日下君敏君) 私は日程第5の議案第1号乃至議案第8号につきまして賛成討論をいたすものでございます。

平成5年度の予算案は、一般会計で156億2,800万円、対前年度比8.4%の増、一般及び特別会計を合わせますと261億3,400万円、対前年度比12.4%増の大型予算になっております。私はこの側だけの——とにかく大型予算を組んだということで、庄司市政の積極性ということの中で賛成をまずいたすものであります。特に、国及び県の予算、さらには県下他市の予算との比較の中におきまして、とにかくも前向きの予算を組んだということにつきまして賛成するものでございます。もちろん地方自治というものはその都度その都度の各市町村の状況によりまして予算額が変動いたすということは承知しておりますけれども、とりあえず側といたしまして——側というか、外側といたしまして大型予算を組んだということにつきまして、予算につきまして賛成をするものであります。

その内容でございますが、市長の施政方針の中に活力ある文化福祉都市を目指すということの中で地域の活性化を推進するというふうにうたっておりまして、それを表題といたして各種ビッグプロジェクトを置いておるわけですが、館山工業団地の整備、駅周辺の整備、さらには交通道路網の整備、そして上下水道の整備拡充等々の施策を一応遂行いたすということになっておるわけでありまして、特に駅周辺の整備、交通道路網の整備、さらに上下水道の整備につきましては、現在のところ経済状況がかようなことでございますけれども、これから経済が上向いてまいりますれば、当然館山市を中心とする安房地区は観光の拠点となるわけでございます。そういたしますと、駅周辺等々の3施策は将来の受け皿として大変必要なものになるだろうと思います。そういう意味で、この施策を盛り込んであるということで、大変評価をいたすところでございます。

そして、一方で福祉対策につきましても、高齢者福祉の向上、また生涯学習事業等々を盛り込んであるということで、施策的にもまずまず無難なところではなかろうか、大変よろしいのではなかろうかと思うわけでございます。

各事業についての数字についてはいささか不満の点もございますが、まず施策について評価をいたすところでございます。ただ、ここに上げてございます、予算案に上げてございます数字は、それぞれ不急不要なものはない。つまり、それぞれが喫緊の要務にあるんだろうと思うんでございますけれども、各数字につきましては、やはり常にこの予算は我々市民の税金をもってなっておるわけでございますから、数字の洗い直しということについては十分これからも作業をいたしていただきたいと思うところでございます。特に、問題となります補助金につきましては、やはりこの補助金が年々ふえていくということは仕方がないといいたしましても、またどうしても必要な補助金があるかと思いますが、各種団体に対する補助金の洗い直し、あるいは整理整頓というようなことはこれからも十分吟味していただきたいと存ずるところでございます。

そして、この予算の執行に当たりましては、現下の経済状況を踏まえて、なるべく早目早目に、また公共事業等々も国及び県の指導に基づいて早目に執行いたされんことを要望いたしまして、賛成討論といたします。

◎議長（福原 勤君） 他の議員で討論ありませんか。―― 討論なしと認めます。よって、討論を終結いたします。

採 決

◎議長（福原 勤君） これより採決いたします。

採決は分割して行います。

まず、議案第1号、一般会計予算について起立により採決いたします。

本案についての委員長報告は原案可決であります。

本案を委員長の報告どおり可決することに賛成の諸君の起立を求めます。

（賛成者起立）

◎議長（福原 勤君） 起立多数であります。よって、本案は原案どおり可決されました。

次いで、議案第2号乃至議案第8号の各特別会計予算について一括して採決いたします。

各議案についての委員長の報告は原案可決であります。

各議案を委員長の報告どおり可決することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎議長（福原 勤君） 御異議なしと認めます。よって、各議案はいずれも原案どおり可決されました。

館山市選挙管理委員会委員及び同補充員の選挙

◎議長（福原 勤君） 日程第6、館山市選挙管理委員会委員及び同補充員の選挙を行います。

お諮りいたします。選挙の方法は、地方自治法第118条第2項の規定により、指名推選によりたいと思います。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎議長（福原 勤君） 御異議なしと認めます。よって、選挙の方法は指名推選によることに決しました。

重ねてお諮りいたします。指名の方法は、議長において指名することにしたたいと思います。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎議長（福原 勤君） 御異議なしと認めます。よって、議長において指名をすることに決しました。

これより指名をいたします。

お手元に配付の指名表のとおり、館山市選挙管理委員会委員に加藤 利氏、金子光男氏、館石 正氏、黒川邦保氏、同補充員に山井 廣氏、安西信雄氏、庄司利光氏、近藤君枝氏を指名いたします。

なお、補充員の補充の順位は、第1順位山井氏、第2順位安西氏、第3順位庄司氏、第4順位近藤氏といたしたいと思います。

以上、指名いたします。

お諮りいたします。ただいま議長において指名いたしましたとおり、館山市選挙管理委員会委員、同補充員の当選人と定めますことに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎議長（福原 勤君） 御異議なしと認めます。よって、館山市選挙管理委員会委員に加藤 利氏、金子光男氏、館石 正氏、黒川邦保氏、同補充員に山井 廣氏、安西信雄氏、庄司利光氏、近藤君枝氏がそれぞれ当選されました。

閉 会 午後３時０７分

◎議長（福原 勤君） 以上で本定例会に付議されました案件は議了いたしました。

よって、これにて第１回定例会を閉会いたします。

◎本日の会議に付した事件

- １ 議案第１号乃至議案第３４号
- １ 継続審査について（請願第８号）
- １ 館山市選挙管理委員会委員及び同補充員の選挙

地方自治法第１２３条第２項の規定により署名する。

館山市議会議長

館山市議会副議長

館山市議会議員

館山市議会議員

